

センターの一年を振り返って

センター専任教員

吉原 美知子

平成 23 年 3 月に東日本大震災が発生しました。稀に見る大災害で、東北地方の太平洋沿岸を中心とした広い地域で甚大な被害を受け、未だ収束したとは言い難い状況にあります。センターでも大きな揺れを感じましたが、幸いなことに利用者等の人的被害、建物、収容機器のいずれにも大きな問題はありませんでした。建物が 2 階建で比較的揺れの影響が少なかったこと、センターの機器は耐震固定を心がけていたことによるように思います。それでも 3 月下旬～4 月上旬には計画停電の可能性があったため、多くの機器を停止しました。春休み期間ではありましたが、p.23 に掲載した「平成 23 年度設置機器利用状況」を見ていただくとほとんどの機器でこの時期の稼働率は少ないことがわかります。地震だけでなく大規模停電等、これまで以上に緊急時の対応について検討しておく重要性を再認識しています。

平成 23 年度の大きな出来事の一つは、7 月 1 日に全学教育研究施設である RI 教育研究施設(旧 RI センター)が機器分析評価センターと統合したことです。いずれも学内研究者や学生に教育・研究の場を提供する施設であり、統合によって効率的な運営が行えると判断されたことによります。この統合で RI 教育研究施設の職員は機器分析評価センターの所属となり、お互いに協力して運営を進めております。RI 教育研究施設の詳細については p.12 をご覧ください。

センター設置の研究機器では、平成 22 年度補正予算により「ナノ精度生体分子イメージングシステム」として MALDI-TOF/TOF イメージング質量分析装置が導入されました。この装置は高精度・高分解能の質量分析装置であると同時に、高精度でイメージング測定が可能です。この装置が加わり、センターでは 5 機種 of 質量分析装置が稼働することになりました。利用者は測定する分子量の大きさなどによって最適な装置を選択することが可能となります。

センターでは昨年度よりセンター設置機器の検索や予約が可能な「共同利用機器利用検索システム」を運用しています。掲載されている機器はオンラインで予約状況を把握することが可能で、多くの方に利用していただきました。今年度はさらに学内の共同利用可能機器に範囲を広げて情報を収集し、システムの更新作業を行っており、平成 24 年 4 月からは新たに「YNU 機器利用支援システム」を稼働予定です。新システムでは利用者登録により、機器管理や利用状況の把握が容易になると期待しています。このように学内の共同利用機器についてセンターが積極的にかかわって情報を登録するようになった背景には、文部科学省などが進める「設備サポートセンター」の整備事業があります。センターの収集する機器情報は、大学全体として設備を有効活用するとともに、機器の適切な配置や更新等の重要な資料となります。学内の機器をご担当の先生方にはいろいろとご協力をお願いすることになりますが、ご理解のほどお願いいたします。

センターでは今年度も高校生向けのテクノワールドや公開講座などの行事を実施しました。学外からの依頼分析数も増加傾向を示しており、学内利用者優選が原則ではありますが、地域との連携の重要性も増していると感じます。

センターでは利用者の皆様がさらに使いやすい環境となるよう努めていきたいと思っておりますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。